

2026 年度 自己評価報告書

学校法人佐々木学園

東京グローバルビジネス専門学校

評価項目の達成度及び取組状況

1. 教育理念・目標

【評価項目】適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1	評価
学校が教育を行う理念・目的・育成人材像等が定められているか	4
理念・目的・育成人材像を実現するための計画・方法を持っているか	4
理念・目的は、社会のニーズ等に対応し適宜見直されているか	4
理念・目的・育成人材像等が教職員に周知され、学外にも公表されているか	4

① 課題

昨年度から注力している MVV や『行動指針』の浸透施策により、教職員間で『心理的安全性』や『ATM』といった共通言語は育まれてきた。しかし、その理念を『挨拶』『時間の厳守』『適切な言動』といった実際の『学生指導の現場』にまで結びつける点においては、まだ若干の課題が残っていると感じている。

② 改善方法

理念の『理解』から『体現』のフェーズへと進む。学生指導の際には、言葉で伝えるだけでなく、まずは我々教職員自身がキーワードを体現し、『背中を見せること』を指導の要としていきたい。教職員の姿勢で導く、あたたかで愛情深い教育を全員で実践していく。

③ 特記事項

次年度より『就職はゴールではなく通過点である』という前提のもと、起業家であれ企業人であれ、社会で際立つ『ビジネスリーダーの育成』へとカリキュラムのアップデートを図る。同時に、開校当初からの理念である『社会に出た後も可愛がられる人材の育成』は変わらぬ基盤としていきたい。

2. 学校運営

【評価項目】適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1	評価
目的・目標に基づき、運営方針は明確に定められているか	4
目的・目標を達成するための事業計画が定められているか	4
意思決定のシステムは確立されているか	4
人事処遇に関する制度は整備されているか	4
教職員の増減に関する情報を明確に把握しているか	4
業界や地域社会に対するコンプライアンス体制は整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
業務効率化を図る情報システム化がなされているか	4

① 課題

次年度は新たに5名の教員がクラス担任としての業務を開始するなど、組織規模が拡大している。それに伴い、新規入職者のフォローや、学園の理念（MVV）を体現できる人材の育成 及び 教職員全員が同じ方向を向くためのベクトル合わせが急務となっている。

② 改善方法

学園の人材育成体系の構築に尽力し、ステージごとに必要となる知識やスキルの修得機会を創出したいと考える。また、経営の根幹である『学園目標』と『理事長目標』を、各チームの目標 そして教職員一人ひとりの人事評価制度（個人目標）と明確に連動させ、組織全体が連動して動く仕組みを強化する。

③ 特記事項

『2校の組織融合施策』により、所属校の枠を超え学園全体を牽引する視座が醸成されている。また、昨年度からの課題であった業務効率化については、新たに NotebookLM の全体使用や Gemini 有料版の契約検討など、AI の積極的な活用浸透に着手し、スピード感を持って進めていきたい。

3. 教育活動

【評価項目】適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1	評価
理念等に沿った教育課程の編成・実施方針を定めているか	4
修業年限に応じた教育達成レベルを明確にしているか	3
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的職業教育の視点に立ったカリキュラムになっているか	4
授業評価を実施しているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
目標とする資格・免許は、教育課程上で明確になっているか	4
資格（免許）の指導体制は整っているか	4
資格・要件を満たした教員を確保しているか	4
研修会等教員の資質向上への取り組みを行っているか	4
業界等との連携による教員の技術向上の機会を確保しているか	3
教員たちが連携を図れる組織体制を整備しているか	4

① 課題

次年度、当校は開校後初めて定員を満たした学生数と教職員数で新年度を迎える。この規模拡大に対応しつつ、アップデートされた『ビジネスリーダー育成』のカリキュラムを効果的に運用するためには、『募集・教育・出口（進路）』を一貫して繋ぐ新たな教育体制が必要なフェーズに入っていると認識をしている。

② 改善方法

日本語講師、国家資格キャリアアドバイザー、情報システム担当、米国留学経験者といった多様な専門性を持つメンバーで構成された『教育支援チーム』を編成した。それぞれの知見と強みを活かし、特別授業の実施や資格取得を推進し、教育の質の向上を図りたい。

③ 特記事項

昨年度課題に挙げていたカリキュラムの精査についても、次年度の本格的なカリキュラム改編（就職と起業の双方を視野に入れた内容）を通じて最適化を図っていく意向である。

4. 学習成果

【評価項目】適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1	評価
就職率の向上は図られているか	4
資格・免許の合格率の向上が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的評価を把握しているか	3

① 課題

外国人材の増加に伴い、就職活動は更なる激化を見せている。同年代の日本人学生や他の外国人材の中から『選ばれる人材』を育成し、内定獲得を促進する強固な仕組みづくりが急務である。

② 改善方法

新設した『教育支援チーム』を中心に、社会で真に必要とされる資格取得の推進やスキルアップを図りたい。昨年度のタイピングテスト導入で得た『実務に直結するスキルの重要性』という知見を活かし、学習成果を就職力へとダイレクトに繋げる教育を実践する。

③ 特記事項

学習成果や教育の質を担保する一つの指標として、学園目標として掲げている『1 年次の退学率 5 パーセント以下』という数字を意識し、追跡・管理を行いたい。

5. 学生支援

【評価項目】適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1	評価
就職に関する支援組織体制は整備されているか	4
退学率の低減が図られているか	3
学生相談に関する体制を整備しているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4
学生の健康管理を担う組織体制は整備しているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	4
社会人ニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	—

① 課題

次年度は2年次が8クラスへと規模が拡大し、学生を社会へ送り出すという重大なミッションを控えている。これまでの『進路支援チーム』単独の体制では、実績確保において潤沢な人員と時間を割くことが難しくなることが懸念される。

② 改善方法

『入学した学生は、責任を持って就職させる』という強い覚悟のもと、『全教職員でのワンチーム体制』へと進路支援の在り方を移行する。業務の選択と集中を行い、学生一人ひとりの進路支援に手厚く伴走をしていきたい。

③ 特記事項

東京都の専門学校における留学生の就職率平均が40%と言われる中、例年95%以上の就職率を確保している。また、昨年度から関係構築を進めていた卒業生との連携についても、今年度は初めて学校負担でホームカミングデーを開催し、世界的なネットワークの強化にも更に尽力をしたい意向。

6. 教育環境

【評価項目】適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1	評価
教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具を整備しているか	4
校外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

学生数及び教職員数の増加に伴い、バックオフィスの環境改善、収納スペースの確保、不足分のパソコン（Microsoft365 アカウント含む）の購入など、物理的・ハード面での環境整備が必須となっている。

② 改善方法

教職員室のレイアウト変更や地下駐車場の倉庫化等を実施し、安全面に配慮した環境改善に注力した。さらに継続的な改善として、『全教室の机の入れ替え』及び『特定フロアの空調設備の改修』を実施し、快適な学習・就業環境の再構築を促進したい。

③ 特記事項

今回の設備投資（机の刷新等）を好機と捉え、週末等の空き時間に教室を『資格試験等への貸し会場』として外部へ提供・活用する準備を開始する。地域・社会に開かれた学校としての機能を持たせていく。

7. 学生募集と受入れ

【評価項目】適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1	評価
学生募集活動は、適切かつ効果的に行っているか	4
学生募集活動において教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考基準は明確になっているか	3
入学選考は、適性に行われているか	3
学納金は、妥当な金額設定になっているか	4

① 課題

『ビジネスリーダー育成』のためのカリキュラム作成への本格的な移行に伴い、学校が求める人物像や提供できる価値が変化していくと思われる。この新たな魅力を正しく伝え、募集定員を満たすための戦略的な広報活動が求められる。

② 改善方法

学習内容の刷新に伴い、募集戦略と出口戦略（就職・起業）に一貫性を持たせるため、教務や広報が連携し、学校教育全体の整備に尽力することが求められる。また、必要人材のヒアリングを実施し、新規授業に対応できる適切な非常勤講師の採用も並行して行いたい。

③ 特記事項

昨年度課題としていた『理念に基づく選考基準』については、MVVの浸透と共に継続して最適化を図る。次年度の国際ビジネス科の入学人数目標は『296人』とし、質の高い募集活動を展開する。

8. 財務

【評価項目】適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1	評価
学校及び法人の中長期的な財務基盤は安定しているか	4
予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	4
法律や寄付行為に基づき、適切に監査を実施しているか	4
財務情報開示の体制は整備されているか	4

① 課題

教育環境のアップデート（机の入れ替え、空調改修、IT 機材の購入など）に伴う設備投資が続く予定。財務基盤をより強固なものにするため、既存の学費収入等に加えた新たな収益源の確保が課題として挙げられる。

② 改善方法

再来年を目安に本格的に施設貸し出し（貸会議室・試験会場としての提供）の運用を開始できるよう、次年度は必要な施設の改修や提携先の選定に着手する。設備投資をコストで終わらせることなく、収益化の手段として活用をしていきたい。

③ 特記事項

学園全体の目標として『貸会議室売上：1,700 万円以上』を計数目標として設定している。昨年度課題であった留学生への経済的支援施策の調査についても、財務の健全性を保ちながら並行して検討を続けていきたい。

9. 法令等の遵守

【評価項目】適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1	評価
関係法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営がなされているか	4
個人情報保護に関する対策が取られているか	4
自己評価の実施体制を整備し評価を行っているか	4
学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	4
学校関係者評価結果を公表しているか	4

① 課題

多くの留学生が在籍する教育機関としての責任から、今年度ついに『全学生対象の避難訓練』を実施できた。しかし、カリキュラム調整や地域との連携等の壁を乗り越えての初実施であったため、オペレーション面での反省点や課題も見受けられた。

② 改善方法

今回認識された課題を理由に歩みを止めることなく、改善策を講じながら次年度以降も『防災教育』を継続・定着させたいと考える。留学生の安全を守るため、マニュアルやオペレーションのアップデートを図っていきたい。

③ 特記事項

有事の際の対応に係る取り組みは、昨年度からの継続課題であったが、全学生対象の訓練を実施できたことは大きな前進であると考えたい。より安全で安心な学習環境の構築に努めることを必須と考え、当件にも注力をしていきたい。

10. 社会貢献・地域貢献

【評価項目】適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
国際交流に取り組んでいるか	4
学生のボランティア活動を推奨し支援を行っているか	4

① 課題

昨年度開始した地域清掃等に加え、留学生と日本人が混在している当校の特色を活かした、より創造的な課外活動の創出が課題となっていた。

② 改善方法

今年度初の試みとして、東京都内の保育園様のご協力を得て、留学生による『異文化交流ボランティア』を計3回実施した。この成功体験を契機とし、次年度も地域社会と連携したボランティアや課外活動を積極的に促進していく。

③ 特記事項

学生自らがプレゼンテーション資料を作成し、日本語で園児に教えるという経験は、就職先のひとつであるサービス業等で求められる『多様な年代とのコミュニケーション能力』への大きな自信に繋がったと推察している。社会貢献が人間力教育の一助として機能していると信じたい。